

甲賀市レッドリスト 2022 爬虫類 概要

◇ 甲賀市の爬虫類（爬虫類相および地理分布の特徴、解明度）

- 甲賀市の爬虫類については、16種が記録されている（「甲賀市爬虫類目録および生息状況 2017」）。甲賀市水口町の丘陵地にある、みなくち子どもの森園内ではカメ類（カメ目）2種、トカゲ類（有鱗目トカゲ亜目）3種、ヘビ類（同ヘビ亜目）7種の爬虫類が確認されている（河瀬ほか，2010）。
- 甲賀市の爬虫類の分布について、詳細な調査はなされていないが、現在までの知見から概要を以下に述べた。
- カメ類はニホンイシガメ、クサガメ、ミシシippアカミミガメ、ニホンスッポンの4種が記録される。市内に広く見られるのはニホンイシガメであり、ほぼ全地域に生息する。市内の丘陵地のため池にみられることが多く、近隣の水路、水田などで確認できる。しかし、丘陵部に幅が広い道路が敷設され、コンクリート側溝が普及する等によって生息環境の分断・孤立が起きている。また、特定外来種のミシシippアカミミガメの分布が市内で拡大しており、市街地付近のため池では優占種の場所もある。ニホンスッポンは水口町内の野洲川と甲南町にかけての柚川で複数の記録があり、子ガメも目撃されている。クサガメは野洲川沿いの水田地域の側溝で確認されている。
- トカゲ類は、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビの3種（ヒガシニホントカゲを分けると4種）が分布する。ニホンヤモリは市内の各市街地・住宅地を中心に確認されている。ニホントカゲは市街地付近の石垣から、鈴鹿山脈、信楽山地の岩礫地まで広く分布するが、分布記録は少ない。市内では野洲川を境にして、北側にヒガシニホントカゲ、南側にニホントカゲが分布するとされた（滋賀県生きもの総合調査委員会，2021）。ニホンカナヘビは市内全域の農村部の草むらなどに普通に見られ、個体数も少なくない。
- ヘビ類では9種が生息する。市内に広く分布するのは、アオダイショウとシマヘビで、丘陵地の農村部や住宅地の辺縁では最も普通に見られる。ただし、住宅の近代化によってアオダイショウが家屋周辺に生息することは少なくなった。市中央部の丘陵地帯や水田周辺の環境を中心に、ヒバカリ、ジムグリの記録が広く散見される。ヤマカガシは鈴鹿山脈と信楽山地を中心に生息しており、丘陵部ではほとんど記録がない。シロマダラの記録は少ないが、水口町、甲賀町、甲南町と信楽町と広範囲に記録があり、民家付近でも確認されている。タカチホヘビは土山町の山間部の記録があるのみである。ニホンマムシは、丘陵部から鈴鹿、信楽の山地まで市内に広く生息し、野洲川沿いに水口町の市街地付近で見られる場合もあるが、個体数は多くない。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 爬虫類 掲載方針

- ・ 甲賀市レッドリストでは、外来種を除く、市内に分布する爬虫類を評価対象とした。
- ・ 2012 年のレッドリスト策定後は、計画的な市内の爬虫類調査は実施されていないが、生き物観察会や有志の方らを通じて、市内の爬虫類についての情報が自然館に収集されており、その結果を改訂レッドリストに活用した。
- ・ カテゴリー定義：「絶滅種」は過去に生息したが、現在は見られない種。「絶滅危惧種」は、市内に数ヶ所以内の生息地、繁殖地。「絶滅危機増大種」は生息地が少ない。生息域が限定される。もしくは減少度合いが著しい。「要注目種」は情報不足のため、上記分類群に入る可能性が高いが決定できないもの。良好な環境に生息する指標種で注目が必要な種など。「地域種」については、甲賀市付近に特徴的な分布をする種や、市内に特有な形態や遺伝の型が分布する種、市内の環境を特徴づける種を選定した。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 爬虫類 掲載種の概要

- ・ 各カテゴリー掲載種数（甲賀市レッドリスト 2007、2012、2017 と比較）は以下表のとおりであった。

表. 甲賀市レッドリスト 2022 爬虫類 掲載種数

＼	2022	2017	2012	2007	備考
絶滅種	0	0	0	0	
絶滅危惧種	0	0	0	0	
絶滅危機増大種	1	0	0	0	
要注目種	8	9	8	9	
地域種	0	0	1	3	2012 年に地域種の定義変更
(合計種数)	9	9	9	12	

- ・ 絶滅危機増大種にニホンイシガメを指定した。
- ・ 要注目種としてニホンスッポン、ニホントカゲ（ヒガシニホントカゲを含む）、タカチホヘビ、ジムグリ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシの 8 種を指定した。

◇ 甲賀市レッドリスト 2017 爬虫類からの変更とその理由

- ・ ニホンイシガメが急速に減少傾向であることから、絶滅危機増大種とした。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 爬虫類 今後の対策・留意点

- ・ 市内に生息する 16 種（ヒガシニホントカゲ含む）のうち 9 種がレッドリストに掲載されたことは、爬虫類の餌となる昆虫類や両生類等の小動物が減少するなど、生息環境の現状を示している。しかしながら、爬虫類で絶滅危惧種が指定されなかった原因として、カメ類は水辺環境に依存するものの、ヘビ類やトカゲ類は森林や草地の環境が豊富に存

在する市内では、生息環境が比較的に広いことが考えられる。

- ・ タカチホヘビ、シロマダラ、ジムグリの地中性ヘビ類は確認が困難であることから、生息状況を把握することが難しく、情報不足の面が大きい。しかしながら、近年、シロマダラの確認記録が市民から寄せられるケースが続いている。ネットニュース等で“幻の蛇を発見！”といった見出しで発見が紹介されるケースがあり、それを見た人が報告しなければ…と近隣の博物館に連絡をくれると考えられる。市内でもこの5年の間に4件の連絡をいただいた。多くの市民の目による調査成果が期待できる。

【参考文献】

環境省 (2020) 環境省レッドリスト 2020. <<http://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>> (2020年3月27日公表、2022年9月閲覧).

河瀬直幹・小西省吾・横山明子・西村淳子・新保建志 (2010) みなくち子どもの森の爬虫類. みなくち子どもの森自然館(編), みなくち子どもの森年報告第5号(平成17~20年度), pp. 60-61.

甲賀市みなくち子どもの森自然館 (2007) 甲賀市レッドデータブック- 守ろう!!甲賀の自然と生き物. 80pp., 甲賀市, 甲賀.

甲賀市みなくち子どもの森自然館 (2013) 甲賀市レッドリスト 2012. <<http://www.city.koka.lg.jp/item/10943.htm>> (2018年1月閲覧).

甲賀市みなくち子どもの森自然館(2018)甲賀市レッドリスト 2017 <<http://www.city.koka.lg.jp/item/11775.htm>> (2022年9月閲覧).

滋賀県生きもの総合調査委員会 (2021) 滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2020. 675 pp., 滋賀県自然環境保全課, 大津.

【爬虫類担当者：氏名（所属）】（敬称略、あいうえお順）

河原 豪（長浜バイオ大学）

新保 建志（甲賀市立中学校）

中谷 成一（滋賀県生物環境アドバイザー）